

第二次騒音・振動測定実施 (48.11.26,
第二阪神国道延伸区大正工区)
記事: PC ぐい, ベノト, コンプレッサ
ーによる騒音・振動測定を実施した。
(15) 幹事交替委員
(新) 那智俊雄 大阪府土木部高潮課長
(旧) 松本 正 大阪府企業局臨海開発部長

(1) 名護屋大橋受賞記念講演会 (43.
11.2, 九大 101 号防音教室)
開会のことば 支部長 村上 正
カナダより帰りに 熊大教授 平井 一男
台湾の近況 九大教授 篠原 謹爾
名護屋大橋の架橋をふりかえって
佐賀県土木部 東 義雄
映画上映「名護屋大橋」
(2) 新材料新工法発表会 (43.11.6,
福岡市明治生命ホール)

発表会: 8 題
記帳者: 169 名
(3) 喜入石油中継基地見学会 (43.
11.21)
(1) 鹿児島喜入日本石油(株)原油中継
基地工事
(2) 第4港建, 鹿児島港谷山地区商業港
建設工事
参加者: 41 名

◎西部支部

編集
後記

いま, 机の上のテレビが衛星中継により,
有人宇宙船アポロ 8 号の打上げ成功を報じて
います。本誌が皆様のお手許に届くころに
は, 月周面の成否が判明していることでしょう。

一昔前までは気の遠くなるような話であった月旅行
も, いよいよ手が届くところまで来たようです。これに
ひきかえ, 海の底はどうでしょう。いまだに大部分の海
は, わずか 100 メートルの底がよくわかっていないので
す。そして, やっと 1 万メートルまで静かに沈んだこと
はあっても, 大部分は 150 年も前に発明された潜水服に
身を固めて, たかだか 40~50 メートルまでもぐっている
にすぎないのです。

しかし, ここ数年来, いくつかの海底居住実験が試み
られ, 今や人間はカプセルに入ることなく, アクアラン
グのみで 100 メートルをこえる深さまで潜水し, 海底の
家に住むことによって, かなりの長期間にわたって海底
で作業し, 生活できることが実証されています。そし
て, 水素系の合成空気を用いることによって 250 メートル,
さらには 500 メートルの深さまで潜水し, かつ生活
することが計画されようとしています。

昨年わが国でも「海洋開発」, 「大陸棚の開発」が一
躍クローズアップされ, 宇和島での「歩み号一世」によ
るわが国初の一週間海底生活実験や, 海上保安庁の潜水
調査船「しんかい」の 600 メートル潜水成功, さらには
無人ブルドーザーの海底作業公開実験など, 海洋開発へ
の関心は急速に高まってきました。

このような背景の中で, 「海洋開発」における土木技
術の受け持つべき役割りと, その占めるべき位置づけを
考えてみるために, 本号では「土木と海洋工学」特集

を, 1969 年のトップを打ってお送りすることにしまし
た。

「海洋工学」という言葉はつい最近いい出されたもの
で, その定義や範囲はまだ必ずしも明確なものではな
いようですが, その「意味するもの」から「問題点」
へ, そしてこれに関連する工事の「現況とその展開」に
ついて, それぞれの分野から述べていただきました。

第 3 の巨大科学といわれる「海洋開発」の分野で, 目
下のところ土木工学の分野がもっともおおわれているとい
われています。大陸棚の開発が進めば, 石炭・石油の採
掘など資源の開発のみならず, あらゆる分野での開発が
急速に進められるものと思われま。

土木技術者は, これら開発計画の単なる施工者として
の位置に止まっていてよいもののでしょうか。土木技術者
としての自らのプロジェクトを生み出すべきときではな
いでしょうか。この特集によって, より多くの眼と関心
が海へ向けられることを期待するものです。

去る 12 月 20 日, 懸賞論文「土木学会のあるべき
姿」の入賞者表彰式が行なわれ, 本号に上位 2 編を掲載
いたしました。せっかくの募集に対し, 応募数がわずかに
8 編であったことは淋しい限りですし, テーマについて
も編集委員一同大いに反省しています。

今年も懸賞論文を募集することになりましたし, 表紙
も公募することにきまりました。いずれくわしい応募規
程が発表されることと思いますが, 多数の皆様が奮って
応募されんことをおねがいたします。また, これらに
ついてのご意見がございましたら編集委員会までお知
らせいただければ幸いです。

(豊島 修・記)

土木学会誌編集委員

委員長	森 茂						
委員	旭 一穂	阿部博俊	伊藤俊美	石井弓夫	井上幸衛	内田聡吉	片山恒雄
	加藤正晴	川崎迪一	菊川哲士	坂本健次	沢田健吉	住友栄吉	高尾孝二
	豊島 修	富田 勇	中島英治	新谷洋二	浜守 厚	藤重邦夫	本間 伝
	村山 昶	依田和夫					
	(北海道支部)	(東北支部)	(関東支部)	(中部支部)	(関西支部)	(中国四国支部)	(西部支部)
	小川芳昭	佐武正雄	猪瀬二郎	川本眺万	榎木 亨	船越 稔	粟谷陽一
	藤田嘉夫	沼田 淳	小田純夫	河村三郎	森 忠次	松崎彬磨	今中靖雄
委員兼幹事	及川 陽	渋谷祥夫	服部昌太郎	横山義雄			

本州四国連絡橋技術調査報告書

付属資料 1. 耐風設計指針 (1967) および同解説特別頒布

本学会が建設省および日本鉄道建設公団より委託をうけて調査した結果を「本州四国連絡橋技術調査報告書」(4冊一組)として頒布いたしました。そのうち、付属資料 1. の下記指針は、学術的、技術的にもきわめて貴重なものであり会員からの要望もありますので委託者のご厚意により限定部数にかぎり増刷の許可を得、下記により頒布しますので希望者は至急お申込み下さい。

記

目次: 第1章 総論/第2章 風の特性/第3章 風速の変動/第4章 設計風速/第5章 静的設計/第7章 動的解析/第7章 構造物に対する風洞実験/第8章 架設中その他の問題点

A4判 120 ページ、活版印刷

頒 価: 1200 円 (送料 100 円)

頒布部数: 100 部

申込要領: 前金で土木学会刊行物頒布係へお申込み下さい。

付属資料 2. 耐震設計指針 (1967) 同解説および耐震設計詳説特別頒布

標記報告書は、増刷の許可を得て「応答を考慮した長大橋の耐震設計に関する講習会(7月16日開催)」のテキストとして頒布いたしました。まだ残部がありますのでご希望の方は至急お申込み下さい。

目次: 第1編 本州四国連絡橋耐震設計指針(1967)・同解説/第2編 耐震設計詳説 第1章 諸論/第2章 設計に用いる地震動/第3章 地震時の土圧および水圧/第4章 下部構造/第5章 吊橋/第6章 カンチレバー橋/第7章 アーチ橋

頒 価: 1500 円 (送料 100 円)

頒布部数: 150 部

申込要領: 前金で土木学会刊行物係へお申込み下さい。

会 員 の 入 退 会 に つ い て (昭 和 43.11.1~30)

入	会	122 名	(正 37	学 83	特 1 D 2)
復	活	4 名	(正 2	学 1	特 1 D 1)
退	会	13 名	(正 11	学 1	特 1 D 1)
死	亡	3 名	(正)		
転	格	4 名	学 → 正 3	正 → 学 1	

特 別 会 員 の 入 退 会

○入	会	昭和 43.11. 5	特 1 D	日本電子計算(株)	東京都中央区日本橋茅場町 1-16
		" 43.11.25	"	有限会社 川寿測量設計事務所	東京都練馬区豊玉北 6-14-5
○復	活	昭和 43.11	特 1 D	(株) 西原環境衛生研究所	東京都港区芝浦 3-6-18
○退	会	昭和 43.11.15	特 1 D	八洲道路工業(株)	大阪市福島区上福島北 4-5 長岡ビル

会 員 現 在 数

名 誉	正会員	学生会員	賛助	特級	特 1 A	特 1 B	特 1 C	特 1 D	特 2	合 計	前月(比)
62	20 660	5 573	30	19	16	55	212	338	72	27 037	(110)

正会員	金子 征 君	五洋建設(株) 常務取締役	昭和 43.11.22	死去	64 才
正会員	畑 一 男 君	西日本鉄道(株) 線路課長	昭和 39.	死去	60 才
正会員	山田 昌 君	鹿島建設(株)	昭和 43.10.22	死去	61 才

昭和 44 年 1 月 10 日印刷

昭和 44 年 1 月 15 日発行

土木学会誌 第 54 卷 第 1 号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社技報堂

東京都港区赤坂 1-3-6

口絵写真印刷者 若林孟夫

口絵製版印刷所 ㈱若林原色写真工芸社

東京都港区芝金杉川口町 20 番地

発行者 羽田 巖

発行所 社団法人 土木学会

東京都新宿区四谷一丁目

定 価 250 円 (送料 30 円)

振替 東京 16828 番

電話 (351) 5130 (編集直通)・5138・5139 番

施工技術

定価 230円
毎月 20日発売
全国有力書店にて発売

2月号主要目次

特集 現場マンのための目標管理

- 目標管理の考え方 首都高速道路公団 宇津橋昭八郎
- 土木工事における目標管理の問題点 野木貞夫
- 目標管理の実施例
 - 1 工期短縮と原価低減 野木貞夫
 - 2 利益の向上 三井建設 金丸由之助
- 土木工事におけるZD計画の実際 大成建設 中条博之
- この特集を終るにあたって 首都高速道路公団 宇津橋昭八郎

◎主要記事◎

- 市街地におけるリバスサーキュレーション工法 日本国土開発 佐久間彰三
- 水島岩壁の施工 川崎製鉄 脇黒和彦
- 海底管の施工 大成建設 上田耕平
- ＜連載記事＞
- 本四架橋の基礎施工(7) 建設省近畿地方建設局 相良正次
- くい打ち技術ノート(6) 岡組 藤田圭一

講座

- やさしい建設機械の知識とメンテナンス(9) 瀬下広志
- 現場技術者のための応用力学(9) 三宅政光
- ネットワークの実務(2) 宇津橋昭八郎
- その他 新しい土木用機械・材料/施工と安全対策/現場の用語など

溶接管理の計画と実際

日立製作所 妹島五彦著 A5・250 ¥1350

「接合」という技術は古くからあるにもかかわらず、いまだに近代的でない部分が相当残されている。本書は溶接技術の安定化と、溶接構性造物の信頼をますために、溶接作業をどのように計画し実施したらよいかを解説

ひずみゲージとその応用

工学博士 渡辺 理著 A5・360 ¥2200

ひずみゲージは応力測定の手段の90%以上を占め、産業のあらゆる分野において使用されている。本書は基礎面ではひずみゲージの概念を説明し、応用面では土木用材料も含めて読者の身近かな事例をあげ実戦向きに解説

エレクトロニクスへの挑戦

片方善治著 新書・¥380

現代技術の核心にふれる電子技術の役割、未来像を、技術開発、産業構造の画面から重要でしかも興味あるトピックスを中心にまとめた科学技術読物

宇宙開発への挑戦

上滝致孝著 新書・¥380

月に人類が到達するのも時間の問題となった今日、宇宙開発に取入れられる最先端技術を中心に、開発の現状と将来を平易に述べた異色ルポ

日刊工業新聞社

東京都千代田区九段北1 8-10
振替口座 東京186076